

小史

立川飛行機株式会社が前身。歩みは概略次のとおり。

大正13年 株式会社石川島飛行機製作所として創立(昭和5年に工場を立川に移転)

昭和11年 立川飛行機株式会社に商号変更
終戦まで陸軍の命により、95式1型中間練習機「赤トンボ」を含む各種練習機及び戦闘機等を製作

昭和20年 終戦により事業閉鎖(在籍総人員 42,332名)となり、敷地の大半をGHQにより接収。翌年特別経理会社指定により解散方針とされるも、昭和30年に会社の継続が決定され、商号を立飛企業株式会社に變更

昭和24年 技術伝承目的の第二会社タチヒ工業株式会社設立(昭和27年に立飛工業株式会社を経て新立川航空機株式会社に商号変更)
接収を免れた建屋で製造を継続するも、飛行機の製作はR-52型軽飛行機(国産飛行機第1号)、R-53型軽飛行機及びR-HM型軽飛行機の3機を始めとし、各種機械式立体駐車装置、航空宇宙関連部品等様々な製品を手掛けた(製造部門は平成25年3月に撤退)

昭和48年 返還された接収財産を活用し、不動産・51年 賃貸業を展開

平成24年 1月の非公開化(MBO)、11月のグループ内再編を経て、長年分断されてきた2社の経営統合を実現



立川のほぼ中央に約 28 万坪の土地を所有



立飛グループ
イメージキャラクター
たっぴちゃん

Future image 未来像

立川市のほぼ中央に約28万坪の敷地を保有する社会的責任を認識し、経営理念「不動産事業を中核に 従業員の幸せを通じて社会貢献する」の具現化に向けて、教育・文化・芸術・スポーツの分野で貢献できるような不動産開発を目指してまいります。



立飛グループ
イメージキャラクター
たっぴくん



＜イメージ画像＞
(仮称)Bのほと立川立飛バス
所有不動産の一体開発の第一弾
(タチヒゴルフ練習場跡地)

Re-Structure 再構築

終戦により、当初の会社と技術伝承を企図した会社に分断し、ともに存続の上東京証券取引所市場第二部に上場していたところ、平成23年以降2社同時のマネージメントバイアウト(MBO)の手法による非公開化を経て、63年振りにこれら2社の再統合を果たし、所有不動産の一体開発に着手しました。



戦後国産第1号機
「R-52型軽飛行機」

Tradition 伝統

大正13年の創立以来陸軍向け軍用機等を約1万機製造し、立川地域のものづくりの歴史を、立川飛行場を中核とする企業群とともに紡いできました。

立飛グループは不動産開発をとおして地域社会の発展に貢献してまいります。

この街の暮らしに

愛を 夢を 幸を



←弊社HPへは
こちらのQRコードを
読み取ってください



株式会社立飛ホールディングス

